



木の家のづくり と大工さん

日本は、昔から^{ひのき すぎ}桧や杉などの山の木（^{しんりんしげん}森林資源）を使い、
木の家のづくりをしてきました。
この冊子は、現代の木の家のづくりと、
その現場で中心となって働く^{だいく}大工さんの仕事を
紹介しています。

木は、CO₂（二酸化炭素）を吸収し、
からだの中にC（炭素）を固定し、O（酸素）を排出します。
山で^{ばっさい}伐採され、加工されて、家や家具になっても、
木のからだに固定されたC（炭素）は^{はいしゅつ}排出されません。
このような特徴を持つ、再生可能な資源である木材の力は、
環境問題への対応として日本が目指す
カーボンニュートラル社会（CO₂ 排出量と吸収量の^{しゅうし}収支0）の実現に
^{こうけん}貢献することが期待できるのです。